歴史探訪

HISTORY

北方世界との交易・流通拠点の窓口として役割を果たした中世日本有数の湊町、十三湊。十三湊を支配した安藤氏の軌跡と日本中世社会での「北の文化」を探訪。

市浦歴史民俗資料館に展示されている安藤愛季（ちかすえ）の像（複製）

伝檀林寺から出土した五輪塔

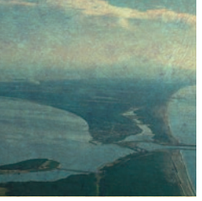
山王坊・日吉神社

安藤盛季像と伝えられる武者木像

十三湊と安藤氏

十三湊は戦国時代までに成立したとされ『廻船式目』（現在の海商法に当たる法律書）のなかで「三津七湊」の一つに挙げられるなど、中世に始まる典型的な港湾都市のひとつです。中世後期に日本十指に数えられるなど全国的にみても北日本屈指の大規模に整備された湊町であり、日本海を舞台に津軽海峡を挟んだ北海道（蝦夷地）におけるアイヌ民族との北方産品（鮭・昆布・毛皮類など）を交易する拠点湊として栄えました。現在は「じゅうさん」、江戸時代後期まで「とさ」と呼ばれていました。

その十三湊に拠点を置き、北方世界を支配したのは安藤氏です。安藤氏は自らの先祖を前九年の役（1051～1062年）で朝廷側の源頼義と戦った安倍貞任の末裔とし、「安倍」を本姓としています。東夷の酋長と呼ばれた安倍氏のように、自らをエミシ（中世には「エゾ」と呼ぶ）のリーダーであると強く主張しています。津軽海峡を挟んだ北方世界を支配する正当性を誇示した特異な豪族なのです。最盛期の室町時代には北海道の渡島半島南部にいわゆる「道南十二館」と呼ばれる領域支配・交易拠点となる館をかまえ、配下の家臣に治めさせています（『新羅之記録』）。道南の館主とアイヌ民族との交易によって得られた北方産品は十三湊に一端集積され、さらに日本海を通じて京都方面へ運ばれていきました。このように十三湊は北方世界と畿内を結ぶ重要な湊としての地位を占めていたのです。また、十三湊が位置する津軽西海岸一帯は中世には「西浜」と呼ばれ、中世国家の東限と認識


十三湊空撮

中世のロマンと安藤氏の世界に迫る。

された「外ヶ浜」（陸奥湾西岸）と同様な性格を有する境界領域でした。まさに西の博多に対比されるような国際貿易港として日本史上極めて重要な意味をもっていました。

平成3年～平成15年にかけて十三湊の学術調査が継続して進められ、十三湊に居住した人々の暮らしぶりや港湾の実態解明に向けた調査が行われてきました。その結果、中世十三湊が鎌倉～室町時代（13～15世紀中頃）に繁栄した湊町だったことが判明し、平成17年7月に国史跡指定となりました。

市浦歴史民俗資料館

十三湊からは膨大な量の陶磁器が見つかり、物資の集積所だった様子を伝えています。中国や朝鮮半島から運ばれた青磁・白磁・高麗青磁、福井県の越前焼、石川県の珠洲焼、愛知県の瀬戸焼などが主要なものです。広く海外や国内各地から日本海を通じて物資が運ばれ、活発な交易活動が行われていたことが明らかになりました。

市浦歴史民俗資料館では、最近の発掘・研究成果からみた十三湊の実態と十三湊を支配した安藤氏の軌跡を紹介しています。

福島城跡、唐川城跡、山王坊・日吉神社

中世港湾都市・十三湊を中心に発展した十三湖周辺地域には、数多くの十三湊安藤氏関連の遺跡が存在しています。特に十三湖北岸には福島城跡、唐川城跡など大規模城館や十三湊の霊場・山王坊日吉神社（山王坊遺跡）、唐川城跡中腹にある津軽三十三霊場第十七番札所の春日内観音堂（龍興寺跡）など、中世的景観が色濃く残る全国的にみても貴重な歴史的・文化的景観に恵まれた地域です。

南部氏との攻防の舞台となった唐川城跡

安藤氏の居城と伝えられる福島城跡
（地図／P18市浦地区詳細図）

春日内観音堂。中世の宗教施設、龍興寺跡とされる

オセドウ貝塚と五月女萢遺跡

十三湖周辺には縄文時代の遺跡も多く見つかっています。オセドウ貝塚は縄文時代前期中頃～中期（約5500年前～4000年前）にかけて形成されたヤマトシジミを主体とする遺跡で、大正10年に貝塚から、埋葬された縄文人骨が発見されたことでよく知られています。

五月女萢遺跡は縄文時代後期後葉から晩期後葉（約3500年前～2500年前）の遺跡で、マウンドを伴う土坑墓群が発見され、注目されました。さらに土坑墓群が大規模な環状に巡ることが判明した貴重な祭祀遺跡です。

五月女萢遺跡から発掘された人面形浅鉢土器

オセドウ貝塚で発見された人骨

旧平山家住宅と楠美家住宅

弘前藩広田組代官所の手代を代々務めた平山家。津軽地方の上層農民が生活した当時の姿を保つ極めて貴重な資料とされ、主屋と表門は国の重要文化財に指定されています。藩政時代、農民は門を建てることを許されていませんでしたが、平山家は藩に対する功労により表門の建造を許可されました。

製材業を営んでいた楠美家の主屋は明治25年頃に秋田から材木を買って建てられた茅葺寄棟造。外観・間取りともに建築当時の様子をよく残した大型民家です。

旧平山家住宅

楠美家住宅

布嘉屋（ぬのかや）

豪商の町、五所川原。中でも呉服商から東北屈指の大富豪となった佐々木嘉太郎の「布嘉御殿」は別格。御殿は大火で焼失しましたが、巨額の私費を投じ、平成21年に御殿の模型を完成させたのが佐々木治さん。なんと模型のみならず展示館まで作ってしまいました。

横8メートル、高さ2.5メートルにもおよぶ大きさで精緻な細工まで再現された「布嘉御殿」

市浦歴史民俗資料館
- 休館／12月1日～翌3月31日
- 時間／9:00～16:00
- 料金／一般310円
- 交通／五所川原駅より車約50分
- 問／市浦地域活性化センター ☎0173-62-2775
- 地図／P18：C-1

旧平山家住宅
- 開館／土・日曜、祝日のみ
- 休館／上記以外の平日及び12月1日～翌3月31日
- 時間／9:00～16:00
- 料金／無料
- 交通／JR五能線五所川原駅より車約10分
- 問／五所川原市教育委員会社会教育課 ☎0173-35-2111 旧平山家住宅☎0173-34-8870
- 地図／P17：E-1

楠美家住宅
- 休館／12月1日～3月31日
- 時間／9:00～16:00 ●料金／無料
- 交通／津軽自動車道五所川原東ICより車で10分
- 問／五所川原市教育委員会社会教育課☎0173-35-2111 楠美家住宅管理人室☎0173-29-3575
- 地図／P16：F-3

布嘉屋（ぬのかや）
- 休館／月曜、冬期11月11日～4月19日（観覧希望の場合は要問合）
- 時間／10:00～16:00（4月20日～11月10日）
- 料金／一般500円
- 交通／五所川原駅より徒歩約7分
- 問／☎0173-34-7670
- 地図／P17：B-3